

答 辞

寒さの厳しい佐久の地にも、少しずつ春の訪れを感じられる頃となりました。本日は私たちの新たな旅立ちにご来賓の皆様をはじめ、盛岡理事長、堀内学長ならびに諸先生方のご臨席を賜り、このような盛大な卒業証書・学位記授与式を挙げていただきまして誠にありがとうございます。また、ただ今はあたたかい激励の言葉を賜りまして、身の引き締まる思いと感謝でいっぱいです。卒業生を代表しまして、重ねてお礼申し上げます。

期待や不安を胸にいただいた入学式からはや二年が経とうとしています。振り返ってみますと、あっという間に過ぎたように感じますが本学で過ごした日々は非常に濃くかけがえのないものとなりました。

授業では、初めて学ぶ福祉や保育のことに最初は戸惑うこともありましたが、それぞれの専攻ごとに知識と技術を習得してまいりました。私は授業で学校のグラウンドへ散策に出かけ草花や虫を見つけるなどの自然遊びをしたり、また、オリジナルの絵本や理想の保育園製作をしたり、クラスで役割を決めハンドベルや劇の計画、背景作りや衣装制作・練習をして、保育園で発表するなど、どの活動も自然に没頭していました。ひとりでは気付けないこともクラスメイトや先生と一緒に学ぶことによって、様々な考えやアイデアがあることに気づきました。また、保育や福祉の専門的な授業だけではなく中国語や、英語、国際福祉などについても深く学ぶことができ、世界の福祉や文化に関する興味関心が強くなったように感じます。

両専攻とも二年間のうちで特に大きな学びでもある実習では、最初は自分にできるかななどの不安な気持ちが多かったことを思い出します。保育園での子どもたちや高齢者施設や障害者施設などの利用者の方との関わり方など自分自身の技術の未熟さに悩むこともたくさんありました。そんな時、保育園や施設の指導担当の方、職員の皆様のアドバイスや励ましなどの温かい言葉にたくさん励まされました。そして何より、子どもたちや利用者の方の笑顔や「ありがとう」「楽しかったよ」などの言葉に何度も元気をもらいました。また、巡回の先生方も話を聞いてくださりとても安心したことを覚えています。私自身実習を通してより一層、保育士として子どもたちや利用者の方に寄り添いたいという気持ちが強くなったと同時に、福祉の仕事に対する喜びや充実感を感じつつ人として大きく成長することができたように感じています。

新型コロナウイルスが流行をして約五年がたちました。少しずつコロナ前のような日常生活に戻ってきたように感じます。その中で私たちは大学祭やクリスマス会など学年を超えて楽しむイベントができたことも二年間の短大生活でとても大きく大切な思い出となり濃い時間となりました。また、クラスメイト、先生方、そして家族、さらに、実習でお世話になった職員の方や利用者の方、子どもたちなど様々な人と繋がり支えがあったからこそ、とても有意義な短大生活だと感じ感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちはこれから新たな道に進みます。時には、悩み前に進めなくなってしまうこともあるかと思えます。その時は、短大で学んだことを自信とし、力として自分なりに少しずつでも前に進めるよう精進してまいります。

私たちが温かく見守り、ご指導くださった先生方。様々な場面で支えてくださった職員の皆様、そして、ここまで私たちを見守り育ててくれた家族に心より感謝を申し上げます。

最後になりましたが、「佐久学園」そして「佐久大学信州短期大学部」のますますのご発展とご臨席を賜りました皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして答辞といたします

令和6年 3月15日

佐久大学信州短期大学部
第35期生 卒業生代表

新海 咲歩